

# リスクアセスメント講習会

## 「現場から学ぶリスクアセスメント」



危険をよみ、災害の芽をつむための効果的な手法で労働災害の防止に効果的である、リスクアセスメント講習会を令和7年3月6日(木)に瀬尻国有林で開催しました。(静岡県・浜松市・林業事業者等 46名参加)

当日は、林災防静岡県支部安全指導員の今井さんに講師をお願いして、リスクアセスメントの必要性・実習(現場踏査・個人ワーク・グループワーク)・改善という実践に基づくリスクアセスメントの手法等を丁寧に講義をしてもらいました。



講師の今井さん

- 【実施プログラム】5グループ(各8人)に分かれて実施
- ① 主旨等の説明
  - ② 現地踏査(危険因子の洗い出し及び作業計画に反映)
  - ③ 個人ワーク及びグループワーク(発表)
  - ④ 意見交換等

## リスクアセスメントの必要性

①リスクとアセスメントとは

リスクとは	作業現場の危険性によって生じる、作業者の怪我の「重大さ」と発生する「可能性」のレベル
アセスメントとは	作業現場のリスクを見積り、評価すること

②参加者

	リスクの特定	リスクの見積	措置の検討	措置の決定
チームリーダー	○	○	○	○
チームメンバー	○	○	○	○
プランナー	○	○	○	○
経営管理者	△	△	△	○

○ 必ず参加    △ 必要に応じて参加

③期待される効果

- 作業現場のリスクが明確になる
- リスクを感じる力が養われる
- 安全対策の優先順位が決定できる
- 俗人的な安全対策からチームワークによる安全確保となる
- 残留リスクに対して、『守るべき決め事』の理由が明確になる

皆で見て、話し合っ  
て決めて  
情報を共有する

## リスクアセスメント実習

作業範囲	地形	地質	植生	沢	水源
障害物	立木状況	作業基準	アクセス	携帯電波	緊急時対応



作業計画(ディスカッション)



残存木安全対策確認



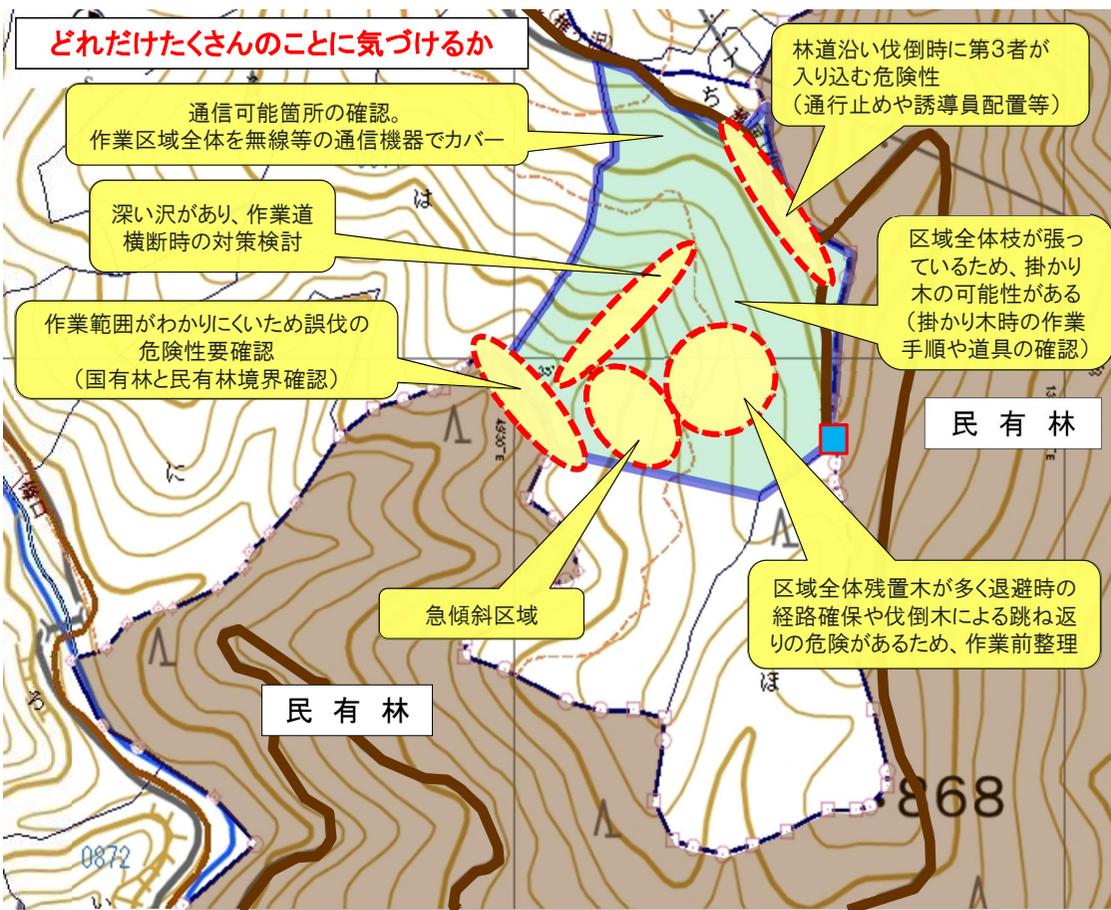
作業道作設時の水処理や安全対策等(沢横断時)



急傾斜地域区域の確認



枝が多く張っているため掛かり木対策の確認等



# リスクアセスメントによる作業条件の改善

## ①手順



## ②優先順位

- 本質的対策**
  - 作業方法の変更
  - 危険作業の廃止
- 工学的対策**
  - 新たな機械の導入
  - 安全装置の装備
  - マニュアルの整備、教育訓練
- 管理的対策**
  - 危険区域の明示
  - 保護具の支給
- 個人的対策**
  - 配置転換

## ③要件

- NGワード (注意する・気を付ける・意識する)
- 明確化(現地で危険因子を見える化)
- 技能訓練(訓練方法・マニュアル)
- 作業基準(ルール(安全用具の使用、合図)規格(伐採・作業道・気資材))

## ④活かせる情報を積極的に取得する。

情報の収集と周知	ヒヤリハット事例
	労働災害事例
	パトロールで指摘された事例
	作業者の不安
	機械の整備状況

## ③現地踏査の整理及びリスク評価 (個人ワーク・グループワーク)



## 各グループによる現地踏査 (リスク評価の発表)



林災防本部渡邊安全管理士から労働災害発生状況・林業災害における重点対策事項等の安全指導をして頂きました。また、浜松市林業振興課枝窪さんよりFSC森林認証から15年を迎え、さらに安全対策等の取組をより良いものにして、職場環境の改善による事業体の魅力をより一層、高めてもらいたいとのことでした。